

与論島の活性化のために

工学部三年 土肥夢花

私は「島のしくみ」の講義を通じて、与論島には大きく分けて二つの課題があることを知った。一つは観光に関する課題、もう一つは人口に関する課題である。観光に関する課題とは、季節によって観光客数が大きく変化することや、島への移動手段が不便であること等である。そして人口に関する課題とは、少子化や労働力不足等である。

両課題に共通することは、予算不足である。講義内容によると、それらの予算は町の公費から賄われているようだ。そのことから私は、両課題を解決するためには、まずはどちらか一方の課題解決に重点を置くべきではないかと考えた。

ここで私は、労働力の増加、即ち人口に関する課題の解決を最優先するべきであると考ええる。なぜならば観光に関する課題の根本には、人口に関する課題も深く関わっているからである。

まず、季節によって観光客数が大きく変化するという問題は、冬場に観光客が満喫できる物事が存在しないことによる問題である。南の島は、冬場でも温かいというイメージが一般にないわけではないため、そういった南の島特有の気候をどうにか生かすべきではないかと考えた。それを活かす手段としては、海や深緑といった絶景を眺めながら入ることができるお風呂や、忙しい日々から離れて旅館でゆっくりしてもらおう等が、例として考えられる。しかし、新たな労働力がないことには、新たな事業に取り組む余裕が与論島にはないのではないだろうか。

次に、島への移動手段が不便であるという問題は、島から島外および島外から島へと移動する人が、船や飛行機の本数を増加するほど多くないことによる。これは人口増加に伴い、移動する人が増えるにしたがって解決されていく問題であると考ええる。移動する人の増加によって、自然と船や飛行機の運営を行う会社も、一日の便数を増加させることを検討するようになるのではないだろうか。

このように私は、人口に関する課題の解決が、観光に関する課題の解決の懸け橋となるのではないだろうかと考えた。ということでまずは、人口に関する課題を解決することが第一である。

私が講義を終えて不思議に感じたことは、与論島の問題解決は全て町の予算で行うべきことなのだろうか、ということである。私は、町の予算以外にも頼れるところはなくはないと考える。町の予算以外に頼る手段を以下の通り考えた。

鹿児島市内では、日々建設業が盛んに行われている。そこでは、建設会社が分譲マンションを建てて購入者を募り、購入者が分譲賃貸として他者に部屋を貸し出す、という流れが多く見受けられる。それは鹿児島市内に住居を求める人が存在しているからである。こ

れを逆に捉えれば、与論島に住居を求める人が一定数現れれば、分譲マンション建設に踏み切る企業も現れるのではないだろうか。これはあくまでも一つの例であるが、このような流れを利用することによって、与論町の力だけでなく、企業の力に頼ることもできるようになるのではないだろうか。

上記の例では、与論島に住居を求める人が一定数現れることが必要とされるが、与論島には住みたいと思わせる魅力が十分に備わっている。世界一ともいえる美しい海があることは勿論、子供が遊べる自然豊かな環境や、コンパクトにまとまっている町の設計も魅力的である。

後は、これらの魅力を日本中に効果的に伝えるだけである。SNSや動画配信等のアプリケーションを利用すれば若者の目に留まるだろう。それらを一度や二度でなく、何度も続けていくことによって、より多くの人に見てもらうことができ、世間に与論島の存在が知れ渡ると考える。

他にも、島民の就労先として企業を島内に迎えることや、ネットワークを利用した仕事をもらうこと等も考えられる。このようにして企業に頼る方向性に、人口に関する課題のみならず、与論島にある問題の解決の希望はないのだろうか、と私は考えた。